



# 南郷

札幌市立南郷小学校

学校だより 第5号  
令和7年 7月25日

【学校電話】011-861-9305

【学校ホームページ】

<https://www.nango-e.sapporo-c.ed.jp/>



## 物の価値、お金の価値と労働

～私の家は紳士服の販売の仕事をしていました～

校長 関根 治彦

「もうすぐ1学期も終了するな～。」と放課後に学校内を回って職員室に戻ってくると、ホールに落とし物が並べてありました。「まだ、こんなにも落とし主が現れていないんだ。」と残念に思いました。

さて、私の実家は紳士服の販売の仕事をしていました。店は住居とつながっており、親が仕事をしているのをよく見掛けていました。小学校3・4年生のとき、放課後友達と遊んでいた私は、お小遣いをもらったばかりだったので、お店に行ってお菓子を買って食べました。そのときに、お店で友達の分も買ってあげました。俗に言う「おごってやった」のでした。その日の夜、友達のお母さんから電話が掛かってきました。

「今日、息子が言うには治彦君にお菓子を買ってもらった。」と、電話を切られ、「ああ、これから説教だ。」と覚悟を決めていたのですが、意外にも母親は怒らず、黙って、店で商品に値札をつける仕事をしている父が見えるところまで連れて行き、こう言いました。

「あなたが今日、友達におごってあげたお金は、父さんが夜遅くまで働いて稼いだお金だよ。お客さんはいい人ばかりではない、嫌なお客さんもいる。そんなお客さんに頭を下げて、稼いだお金なんだよ。たった100円かもしれないけど、その100円の価値はお父さんの働いた価値なの。あなたはお父さんが働いた価値を友達にあげたということを覚えておいてほしい。」と。

どうしようもない罪悪感が襲ってきました。その後は、父親のところに行き、おごってしまったこと、無駄遣いしてしまったことを謝罪しました。父親は

「おまえが、おごってやることに、それだけの価値があると思うなら、別に使えばいい。」と一言だけ言い、値札を付け続けました。これはさすがに応えました。それからお金を使うときは、それだけの価値がある物かどうかを考えて、買うようにしました。今考えると、父親と母親がタッグを組んで、お金の価値について教えてくれたのだらうと、ありがたく思っています。

本日で1学期が終了しました。明日から夏休みに入ります。学校がお休みとなり、子どもたちが校外に出て活動し始めると、「お金の貸し借り」や「おごりおごられる」というトラブルが起きがちです。『よく分かる南郷小～学校のルール』の校外でのルールや『学校のきまり』には、「お金の貸し借り、おごるおごられることについてはしません」と書かれています。

子どもたちは、「これは高すぎ」「めっちゃお得」などと、物の価値とお金の価値はつなげることができています。しかし、意外と実感していないのが、お金が労働の対価であるということ。そして、見えていないのがお金を介して、物は労働の対価であるということです。現在は、親が働いている様子が子どもたちには見えにくい状態になっていることは確かです。そう考えると物の価値、お金の価値、労働の価値の3者のつながりを子どもたちに気付かせていくことが大切です。夏休みにそんな会話があるとありがたいです。

2学期明けに、落とし物コーナーの物が減っていることを祈りながら…。